

散乱光光弾性応力計

model: SLP-2000

本体標準価格 ¥4,500,000



本装置は従来の導波光利用の表面応力計では測定できないLi+⇔Na+交換による化学強化ガラスの応力分布を散乱光光弾性を利用して測定可能にしました。表面付近にK+の層がある場合は導波光利用の表面応力計FSM-6000による情報と合成して断面の応力分布解析を行います。

<標準偏差>

σ

型式	測定波長	CT_CV	DOL_Zero
SLP-1000	640nm	5.65MPa	2.16um
SLP-2000	518nm	1.51MPa	1.42um
SLP-2000	405nm	1.00MPa	1.27um

- ・基準ガラスを20回実測した時のデータ
- ・測定にはその波長での屈折率、光弾性定数の値が必要

仕 様

測定範囲	: 応力値 0-2000Mpa、応力層深さ 10-600um
測定分解能	: 応力 5MPa 深さ 5um
測定精度	: 表面より深さ50um以上 応力±10MPa 深さ±10um (基準ガラスに対して)
光源	: LD 518nm 30mW Class 3B or 405nm 30mw Class 3B
測定対象	: 化学強化ガラス、2段化学強化ガラス、物理強化ガラス
測定形状	: 平面-1000R 10×10mm以上
プリズム屈折率	: 1.518 @518nm / 1.530 @405nm
PC	: 専用(OS、測定ソフト インストール済み)
OS	: Windows 10 professional edition
寸法	: W320*D280*H220mm(本体)
重量	: 10kg(本体)

- * FSMデータとの合成には、別途、FsmV用ドングルが必要です。
- * 405nmのLDを長時間連続的に使用すると、装置内部の光学部品がダメージを受けます。
このため、他の波長のLDを使用する時とくらべ、部品の交換サイクルが早くなります。

有限会社 折原製作所

〒170-0013 東京都豊島区東池袋5-47-15

TEL 03-3985-9531 FAX 03-3985-9532

http://www.ori-hara-ss.co.jp e-mail ori-hara@ori-hara-ss.co.jp